2015 年（H27 年）9 月 17 日（木）高知新聞(朝刊)

高知新聞

須崎工業高等学校

ただ今 修業中 378 人目

少しはうまくなったかな

好きな言葉

ミカンの里、香南市香我美町の静かな山あい。工作機械や溶接機器が並ぶ工場の一角で、厚さ16㍉の鉄板と向き合う一人の職人がいた。

鉄板の切断面を滑らかにしようと、グラインダー（研削機）を当てるたびに火花が上がる。顔面を保護するシールドの向こうで鋭いまなざしが光る。

「最初のころに比べると、少しはうまくなっているのかなと思うんですが…」

産業機械や国内外のテーマパークの関連機器を手掛ける「クリエイト・テーマ」に今春入社した池田結さん(21)。シールドを外すと、あどけなさの残る笑顔を見せた。

池田さんは昨年5月末、高知市内で開かれた県溶接技術コンクールに出場した。

当時はポリテクカレッジ高知（香南市野市町）の学生。女性の出場は約40年ぶりで、44人の参加者のうち女性は1人だけだった。

顔色が悪くなるほど緊張していたという。それでも火花を散らす姿は堂々としていた。8月の表彰式では、努力賞を受賞した。

この時、クリエイト社への入社が内々定していた。企業説明会で彼女を見た同社会長の徳島和夫さん(66)はその姿をよく覚えている。

「『女の人が溶接したらいけませんか？』って質問してきてねえ。勢いが良かった」

高岡郡中土佐町生まれ。子どものころから編み物や料理などを作ったり、絵を描いたり。「溶接工業高校の授業で金属と鉄と鉄がくっつくのが面白い。先生にも褒められた。高校卒業時は県外に出る憧れもあって大手自動車会社を受験したものの、不合格。機械系の専門知識や技術を学ぼうと進んだポリテク高知でクリエイト社と出合った。

同社は、平均年齢30代前半の社員十数人が高い溶接技術を持ち、有名なテーマパーク関連機器も手掛けている。約1週間のインターンシップを経験させてもらい、製品の質の高さや雰囲気の良さに魅力を感じ、「この会社で働きたい」と強く思った。

入社から間もなく半年。今は先輩の指示を受けながら金属の材料を切ったり、穴を開けたりする作業が中心だ。

「図面によって仕事が違う。毎日、やりがいがあります」

この夏、仕事に必要な溶接の資格を一つ取得した。「JIS半自動溶接厚板下向き」。これで鉄の溶接はたいていできる。将来は1人で図面を見ながら材料を切ったり、溶接を施したりし、製品を完成させる製かん工を目指す。

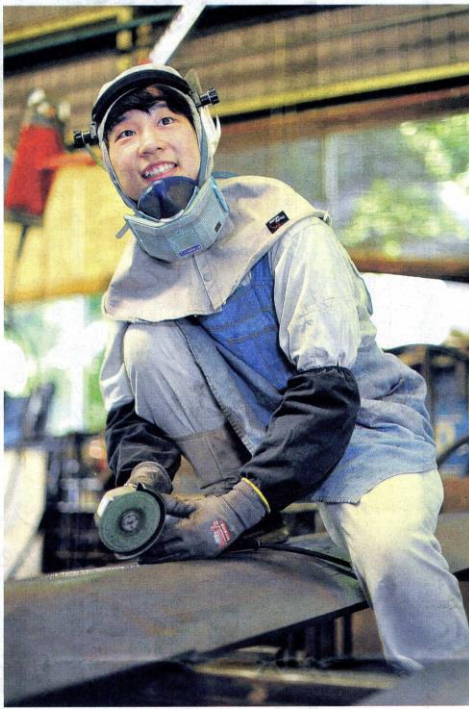
「いろいろな溶接の資格取得にチャレンジして、早く仕事を任せられるようになりたい」

会長の徳島さんは「どんな仕事でもやり遂げる、底のない人になってほしい」と期待している。社長の徳島光晃さん(41)はこう評価した。

「真面目に黙々と楽しみながら仕事をやってくれています。繊細な技術が求められる付加価値の高い製品を、いずれは手掛けてほしい」

会長、社長から褒められると、池田さんは照れくさそうだったが、すぐに表情を引き締めた。

写真・石丸静香
文・竹村朋子



「いろいろな溶接の資格にチャレンジして、一人前になりたい」と話す池田結さん（香南市香我美町の「クリエイト・テーマ」）

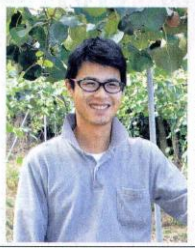
製かん工

池田 結（ゆい）さん(21) 香南市香我美町徳王子

おいしいキウイを

遠境近況

農業
豊崎 恭平さん（31）高松市在住



とよさき・きょうへい 高岡郡四万十町出身。須崎工業高、徳島文理大学を卒業。民間企業での勤務を経て、13年に就農。

就農して3年目。きっかけは義理のお父さんが農業をしていたことです。妻と交際中だったころ、大学生活を送った香川県で別の仕事をしていて、休日に農作業を手伝ったりしていました。そこで育てられたキウイのおいしさにびっくりして、自分でも作ってみたいと思い、農協のインターン制度で1年間の研修を受けました。

国産キウイの出回る時期は11月から3月ごろ。その分、希少価値はあると思うけど、1年間通して勝負するのは難しい。50㌃の農地を借りて作っていますけど、本格的に収穫できるほどの木が太るには10年は見ておかないといけない。そこで今はブロッコリーを育ててメインの収入源にしています。

キウイ栽培は枝の管理や夏場の水やりなど大変な作業があるけど、農業は自分のペースでストイックにやっていけるので性格に合っていると思います。ゆくゆくは僕が感じたキウイのおいしさを、多くの人に感じてほしい。

就農して地元の窪川を見る目も変わりました。農業の盛んな町だけど、後継者不足などの問題があると思う。場所は離れていても、僕らより若い世代に農業でもやっていけるんだと示すことができたらと思います。

卒業生 大活躍！！

先輩たちも責任感と誇りを持ち

仕事に取り組んでいます。

高知新聞社提供複製を禁ず